

平成30年度全国科学博物館活動等助成事業

1. 課題名（交付番号）

「地域回想法」を生かした体験型高齢者向けキットの開発（18005）

2. 事業概要

平成23年12月20日に博物館法第8条に基づく「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」が告示され、同日から施行された。その中で提示されている利用者ニーズの多様化・高度化を踏まえ、当館でも施設設備、来館者対応の両観点から充実した博物館運営を心掛けている。また、少子高齢化社会をむかえるにあたり、地域社会のコミュニティ構築は必要不可欠な課題となり、社会教育施設の役割は今まで以上に重要となっている。当館においても、子どもから大人まですべての世代が自由に自立して学べ、人と人をつなぐ生涯学習の拠点作りを推進している。また、地域にボランティアの育成を進め、地域に愛され、地域に根づいた博物館を目指している。

本事業は、「地域回想法」をベースに、高齢者に視点をおいた特別対応の充実や世代間交流・地域活動における博物館資源の幅広い活用を目的に、福祉・介護施設、公民館等と連携・協働しながら、博物館ならではの高齢者向け体験型キットを新規に開発・製作することにある。地域の福祉・介護施設、公民館等と連携・協働をとり進めることで、社会資源でもある博物館の活用と更なる普及活動の充実が期待されるとともに、博物館が世代間交流促進の場、地域のネットワーク作りの場として、地域社会に貢献することが期待できる。

3. 組織名・申請者名（職名）

組織名：群馬県立自然史博物館

申請者名：静野 聡（教育普及係 主幹）

4. 事業の実施内容

（1）主な活動計画

- ・5月15日 「高齢者向けプログラム及び体験型キット作成」 プロジェクト会議(1)
- ・7月19日 富山県氷見市立博物館 視察
- ・9月8・9日 渋川市小野上公民館（移動博物館）におけるプログラムに係る調査
- ・9月18日 「地域回想法」出前講座の実施(1) 富岡市丹生公民館
- ・9月25日 「地域回想法」出前講座の実施(1) J A甘楽富岡ふれあいデイホーム
- ・10月30日 「高齢者向けプログラム及び体験型キット作成」 プロジェクト会議(2)
- ・12月28日 解説員研修『「地域回想法」を生かした解説プログラム』
- ・3月2・3日 千代田町民プラザ（移動博物館）におけるプログラムに係る調査

- ・ 3 月 15 日 プレオープン 1 『地域回想法』を生かした高齢者プログラム」の実施
- ・ 3 月 20 日 県社会福祉協議会への広報・周知に係る協力依頼
- ・ 3 月 22 日 高齢者プログラムの運用開始に係る県への報道の投げ込み
- ・ 3 月 26 日 プレオープン 2 『地域回想法』を生かした高齢者プログラム」の実施
- ・ 3 月 31 日 広報媒体（HP 等）によるプログラムの告知

（2）7 月 1 9 日 富山県氷見市立博物館 視察報告

氷見市立博物館は、高齢者がいきいきと健やかに過ごせることを目的として、数年前より富山県内では初の介護施設と連携した「地域回想法」の取組を進めている。昔の生活用具や農具などの民俗資料を見て触れることで、高齢者に昔の記憶を呼び起こし、脳を活性化させる心理的・社会的な取組として注目されている。

視察では、氷見市立博物館において「地域回想法」を中心に進めている小谷氏の案内で、以下の調査を行った。

- ・「地域回想法」における活動のプログラム内容・構成、運用等を調査
- ・「地域回想法」で使用する資料・道具等を調査
- ・「地域回想法」を取り入れた実践活動の参観

（写真：窪公民館にて）



実践活動は、窪公民館での活動の様子を参観した。氷見市立博物館では、博物館職員の小谷氏と回想法ボランティアの方々が、チームを組んで集団・グループなど形態を変えながら効果的に活動を進めていた。「蚊帳」や「おひつ」など、昔の道具を目にすると、参加した数十名の高齢者たちは懐かしそうに昔を思い出し、笑顔で語り合っていた。また、プログラムを実施するにあたり、博物館職員とボランティアが入念に事前・事後の打合せを行っていたのがとても印象に残った。

（3）「地域回想法」出前講座の実施報告

地域の公民館、福祉施設に協力を仰ぎ、上半期において試作した『地域回想法』を生かした高齢者向けプログラム』を高齢者の方に実践した。小さい頃の里山での思い出を博物館収蔵資料のはく製 7 体（キツネ・タヌキ・アナグマ・ハクビシン・イノシシ・ウサギ、キジ）を活用しながら、思い出を語ってもらった。実施後は、アンケートを行い、プログラム内容の改善点を検討した。

【出前講座①】

実施日）10 月 1 8 日（木）

協力施設）富岡市丹生公民館

参加者）50 代 1 名 60 代 1 名

70 代 2 名 80 代以上 6 名 計 10 名



【出前講座①】

実施日) 10月18日(木)

協力施設) JA甘楽富岡ふれあいデイホーム

参加者) 80代以上 23名



昔のことを思い出すことが難しい高齢者や少し緊張気味の高齢者も、ウサギやタヌキ、キツネなどのはく製を間近に見たり、毛並みに触れたりする事で、表情が和らぎ、少しずつ子どもの頃の思い出を語ることができた。プログラムの終わりには、参加者同士、笑顔で思い出を語り合う姿も見られた。

(4) プレオープン『地域回想法』を生かした高齢者プログラム』の実施報告

2019年4月2日(火)の本格実施を前に、地域の高齢者を招待し、実際に常設展示室で地域回想法を生かした高齢者向けプログラムを実施した。



【プレオープン1】

実施日) 3月15日(金)

参加者) 地域の高齢者 70代 5名

【プレオープン2】

実施日) 3月26日(火)

参加者) 地域の高齢者 60代 5名 70代 5名
80代以上 3名 計13名



(5) 「地域回想法」を生かした高齢者向けプログラムの内容

名称) 「博物館で思い出を語るんべえ ～思い出を語れば脳もイキイキ～」

内容) 当館の展示解説員と一緒に、自然史博物館ならではの展示標本を「見る」「聞く」「触れる」などの体験を通して、昔の懐かしい出来事や思い出を参加者の皆さんと一緒に楽しく語り合う。

●案内コース(約20分)

・「いいあんべえコース」

展示室で、イスに座りながら、じっくりとプログラムを実施(定員5名程度)

・「いっぺえコース」

学習室で、ゆったりとプログラムを実施(定員10～30名程度)

●「地域回想法」出前講座(約30分)

博物館職員が、施設等を訪問して、プログラムを実施

5. 事業成果

事業を進めるにあたり、上半期は、プロジェクト会議や視察を通して、当館における「地域回想法」の基本的なあり方・進め方を協議・検討し、係内で共通理解を図りながら、当館における「地域回想法プログラム」を試作した。また、実際に、公民館や福祉施設において高齢者の方を対象とした出前講座を実施し、プログラム内容を検討した。

下半期においては、検討課題をもとに、試作したプログラムの修正を図ると共に、はく製業者の協力のもと、体験型キット（さわれるはく製標本）の製作を進めた。また、当館の教育普及係職員及び展示解説員における「地域回想法プログラム」の解説研修の中で、模擬解説などの実践的な研修を積み重ねた。

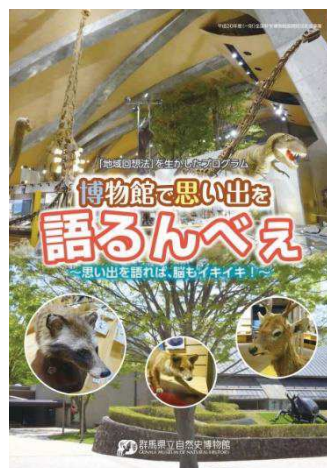
また、新年度からのプログラム運用に合わせて、3月末におこなったプレオープンでは、地域の高齢者を招待し、本番さながらのプログラムを実施した。

広報面に関しては、当館における「地域回想法プログラム」を広く周知させるために、パンフレットを作製・配布すると共に、HPからの情報発信や県の報道機関への投げ込みを行った。また、県の社会福祉協議会における会合の中で、当館の「地域回想法プログラム」を紹介させていただいた。

事業全体を通して、「地域回想法」に視点をあてたプログラムは、デイサービスをはじめとした高齢者グループの来館も多い当館にとって、とても有効なプログラムと実感した。

また、博物館側が、介護予防や生きがいづくりに積極的に関わることで、福祉・介護施設、公民館等はもちろんのこと、一般の高齢者グループの博物館利用を促すことにもつながると感じた。当館の幼児から団塊の世代に対する既存のプログラムに、新たに高齢者向けプログラムを組み入れることで、よりきめ細かな対応が可能になると共に、幅広い世代層に対して博物館の楽しみ方を提供することが期待できると考える。

今後は、さらなる実践を重ね、工夫改善を加えながら、『「地域回想法」を生かした高齢者向けプログラム』の充実を図っていきたいと考えている。



広報用パンフレット



動物はく製標本

6. 成果物

- ・ 広報用パンフレット

「博物館で思い出を語るんべえ～思い出を語れば脳もイキイキ～」 3000部

- ・ 動物剥製標本（ウサギ幼体・タヌキ幼体・キツネ幼体・サル幼体） 4体